

戦間期アヴァンギャルドの縮図としての タイゲのブックデザイン

講師：大平陽一（天理大学国際学部教授）

日時： 6月17日（金） 16:20～17:50

場所： 大阪大学文学部ドイツ文学研究室（本館4F）

内容： カレル・タイゲ（1900-1951）は、両大戦間に登場したチェコ・アヴァンギャルドを代表する理論家・批評家として活躍した人物です。この芸術運動、とりわけシュルレアリスム運動の一翼を担ったチェコ・シュルレアリスト集団について、欧米では研究が進んでいるのですが、日本国内での認知度はまだ低いと言わざるをえません。今回は、1920年代初頭から約30年間、ブックデザイナーとしても活動したタイゲの本作りを手がかりに、芸術と社会とのはざまに花開いたチェコ・アヴァンギャルドの歴史を概観したいと考えています。

主催 大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文学」 / 「美的近代におけるローカリズムと反ローカリズム」研究PT

問合せ 大阪大学文学研究科ドイツ文学研究室（06-6850-5116）